

岡山県芸術祭・倉敷市文化祭参加公演



倉敷音楽協会

第28回 秋の演奏会

# 創設15周年記念演奏会

～華麗なるモーツァルトの夕べ～

1986. 9. 15

■主催／倉敷音楽協会 共催／倉敷市文化連盟  
■後援／岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会



## 《ごあいさつ》



倉敷音楽協会は、本年創設15周年を迎えました。此の間に於きまして各界、各方面から御寄せ下さいました絶大なる御支援と御協力を賜りましたことは、感謝に堪えまもん。本日は、又、公私共に極めて御多忙中にも拘りませず、多数の方々に御来場いただきまして、厚く御礼を申し上げます。

此処に、本協会は15周年を迎えたのでありますが、これは歴史的にみて、まだ若い。故に本協会はいつも生き生きとして、新しい息吹きが感じられ、大きな夢と可能性に満たされているのであります。私達は、いつの時代でも人それぞれに夢と希望があるものです。憧れと未知への探求、理解することへの喜び、そして音楽研究の道に生甲斐を感じてこそ将来に希望が湧くものであります。即ち、学問技術の道に完成もないはずであります。況や人生経験の浅い私達には未熟な点が多いのも当然であり、未熟を未熟と知らず偏狭偏屈な心からは新しい創造を期待することは出来ないのであります。斯かる心構えの下に此の15年間の「あゆみ」を基礎として更に高度の研究、修練に努め其の成果を皆様方の前に公開し、日頃の御厚志にお応えいたしたいと思う次第であります。

さて、本日の特別記念演奏会には、地方楽団として名声の高い倉敷管弦楽団に御協力いただきました。画期的な記念演奏として、当協会史に永く記録されることになりましょう。皆様方の心からなる御鑑賞をいただき、今後も一層の御支援御指導の程を宣しく御願ひします。申し遅れましたが、本演奏会開催に際しまして、県市当局に格別の御援助御協力いただいたことに心より御礼申し上げまして御挨拶といたします。

倉敷音楽協会会長 中 村 平

## 《記念演奏会によせて》



ステージの感動。

音楽するものは、そこにステージがあるから学ぶといえましょう。多様な企画性と積極的な演奏活動を特徴とする倉敷音楽協会も、会員相互の理解と和によって、ともかく15年が過ぎました。

ともすれば、音楽を消費とする現代の風潮の中でわたしたちの志向する美への誘いは、ご満足いただけるかどうか不安も残りますが——いつまでも学ぶ——という、ひたむきな努力に、暖かいご声援をお願い申し上げます。

倉敷音楽協会理事長 鈴 鹿 正



# PROGRAM

2台のピアノによる交響曲第41番ハ長調K. 551      ピアノ 林 園 子  
 「ジュピター」      三 宅 恵

- 第1楽章      アレグロ      ヴィヴァーチェ
- 第2楽章      アンダンテ      カンタービレ
- 第3楽章      メヌエット      アレグレット
- 第4楽章      アレグロ      モルト

ピアノ協奏曲第20番ニ短調K. 466      ピアノ 小 野 佐知子

- 第1楽章      アレグロ
- 第2楽章      ロマンツェ
- 第3楽章      ロンド      アレグロ・アッサイ



オペラ「フィガロの結婚」K. 492より抜粋      スザンナ・ケルビーノ 古 里 静 世

- |                            |         |         |
|----------------------------|---------|---------|
| 三 重 唱 (スザンナ, バジリオ, 伯爵)     | 伯爵夫人    | 佐 藤 則 子 |
| そなたがつい今言うたは                |         |         |
| ア リ ア (フィガロ)               | バジリオ    | 永 田 桂 輔 |
| もう飛ぶまいぞこの蝶々                |         |         |
| カンツォーナ (ケルビーノ)             | 伯爵・フィガロ | 仁 科 喜代蔵 |
| 恋の悩み知る君は                   |         |         |
| ア リ ア (伯爵夫人)               |         |         |
| いずこそ よろこびの日                |         |         |
| 二 重 唱 (スザンナ, 伯爵夫人)         |         |         |
| さあどうぞ (手紙の二重唱)             |         |         |
| ア リ ア (バジリオ)               |         |         |
| 元気に溢れ血気にはやる                |         |         |
| 終 曲 (スザンナ, バジリオ, 伯爵, 伯爵夫人) |         |         |
| 奥方ひらにお許し下され                |         |         |

ピアノ協奏曲第21番ハ長調K. 467      ピアノ 福 守 道 子

- 第1楽章      アレグロ
- 第2楽章      アンダンテ
- 第3楽章      ロンド

指 揮 菊 池 東

管弦楽 倉敷管弦楽団

※作曲はいずれもモーツァルト



## ◎ 曲目について ◎

### ◆ 2台のピアノによる交響曲第41番K・551「ジュピター」

モーツァルトの最後の交響曲であるこのハ長調の曲は、その壮麗さにおいて、また、スケールの大きさにおいて、特に傑出した作品として彼の器楽曲中最高峰におかれている。この曲は、いわゆる「三大交響曲」の最後を飾るものとして、第40番ト短調の完成から約半月の後に仕上げられている。古典交響曲のひとつの頂点を極めつくした力強く輝かしいこの交響曲の楽想は、ベートーヴェンにも匹敵する豪壮なものである。また、この作品は「フーガの終曲を持つ交響曲」とも言われているように、フーガの技法を十分に駆使している。(三宅)

### ◆ ピアノ協奏曲第20番ニ短調K・466

協奏曲作品は、モーツァルトの創作活動のなかでもきわめて重要な位置を占めています。ハイドンが交響曲形式や弦楽四重奏曲の形式の完成者だったとすれば、モーツァルトは協奏曲形式の完成者であったといわれます。

ニ短調(K.466)は、その緊張した暗い情調によって知られています。貴族や市民たちの前で奏される協奏曲は、やはり高級な意味での社交音楽であるため、暗いはげしいものの表現と結びつくことの多い短調を用いて作曲されることはほとんどありませんでしたが、モーツァルトはこの曲でそうした枠を破ったものといえるでしょう。また、協奏曲ではふつうソナタ形式を用いた第1楽章に比重がかかり、フィナーレのロンドはかるく流して作曲するのが例でしたが、このニ短調の作品は中間の歌うようなロマンスをはさんでフィナーレのロンドも充実しており、統一のとれた芸術作品になっています。また、独奏楽器とオーケストラのバランスが完全にとれていることも注目すべきところでしょう。(小野)

### ◆ オペラ「フィガロの結婚」K・492より抜粋

モーツァルト三大オペラの一つ。1786年に完成し、作曲者自身の指揮で初演が行われた。作曲者の30才のときである。このオペラ「フィガロの結婚」は、明朗な笑いとするどい諷刺で当時から人気があり、フィガロのアリア等は一般市民にも口ずさまれるほどであった。

この「フィガロの結婚」は、後にロッシーニの作曲した「セビリアの理髪師」の後編にあたり、その中で伯爵とロジーナの結婚のために一役買った理髪師フィガロは、その功によって今度は伯爵附の従僕にとりたてられている。そして伯爵夫人附の小間使いスザンナと恋をし、とうとう結婚というところまでこぎつけるのである。ところが、伯爵は夫との間に倦怠期を迎えて、若いスザンナに眼が向き、フィガロと結婚する前になんとかものにしようと、ちょっかいを出すのである。伯爵夫人の音楽教師バジリオを使って、いろいろ口説くのだがうまくいかない。今夜はもう二人の結婚式。その前に是が非でもと伯爵は焦るのであるが……。いろいろ事件が起きては解決するうち、伯爵は自分の愚かさに気付き、心あらためるのである。そして、フィガロとスザンナはめでたく結婚式を迎えるのだが、終曲で歌われるこの場面の音楽は大変高貴に書かれており、欲望のみに生きる人間の愚かさを悟らせてくれ、また、それに気付いた人を許すことのできる人間の素晴らしさを教えてくれる。

(仁科)



#### ◆ピアノ協奏曲第21番ハ長調K. 467

ハ長調K. 467のこの曲は、モーツァルトが「フィガロの結婚」を創作した絶頂期である1785年3月に完成しました。

第1楽章の原調はハ長調ですが、大半の部分は他の調子へ転調した和声で書かれていて、例えば、提示部 *Tutti* ハ長調、— Pf ソロ、テーマト長調から— ト短調移行部（ほとんど1小節単位で）ハ長調から— ヘ短調— ロ短調— ホ短調— イ短調— ニ短調— ト長調、そして展開部ホ短調— 再現部ヘ長調— ヘ短調— ハ長調のように、ほとんど短長の和声で書かれています。このめまぐるしい程の転調の際に、モーツァルトの感情の揺れ動く想い—（無限に幸せのよこび、悲しいせつない想いや熱い想い etc.）— を語りかけているように思えてなりません。この作品と深くつき合う程に、あまりの見事な転調と緊密で充実した構成、巧妙なオーケストレーションがすべて定石通り理にかなっていないながら理路を感じさせないのはさすが、天才モーツァルトならではの成せる技……。思わずため息の出るほれ込まずにはいられない、ひとときわ光り輝いた見事な作品だと思います。

第2楽章は、弱音器をつけた弦により原調へ長調で、オペラティックな旋律が流され、中間部ト短調で幸福感に満ちて終わっています。全体的に明るい雰囲気の色音を使っているにもかかわらず、ちらっとせつないロマンの香りが漂うのは当時のモーツァルトのすさんだ生活とそこから生まれた熱い思いを垣間見るようで、たまらない味があります。

第3楽章は、独奏ピアノとオーケストラが対話風に緊迫した進行を見せ、中間部もイ長調で書かれ、終楽章として定石通り明るくさわやかに終わっています。1・2楽章で様々な想いが描かれたあと、突然バーッと清らかで無限に平和な世界が広がっているように感じます。当時のすさんだ生活の中で、これだけの明るさが描けたのは、さすが神童、天才的部分ではないか？と思います。（福守）



### 倉敷管弦楽団

“美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を”を合言葉に昭49年設立の倉敷管弦楽団は、文化都市倉敷にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団です。バロックから現代曲迄幅広い演奏活動で岡山県を代表する楽団として、昭和57年には岡山県文化功労賞を受賞、昭和60年には倉敷文化連盟賞を受賞、将来を大きく期待されています。発足以来美しい弦の響きには定評があり、フルートの世界的巨匠ジャンピエール・ランバル氏との共演を初め、ヴァイオリンの和波孝禧氏、前橋汀子氏、豊田弓乃氏、ピアノの深沢亮子氏、チェロの安田謙一郎氏、山崎伸子氏、オーボエのディーテルム・ヨナス氏、トランペットの津堅直弘氏、又岡山県内で活躍中の音楽家達との共演や、團伊玖磨氏作曲の「管弦楽の為の高梁川」の初演や400名からなる第九演奏会、二期会中国支部とのモーツァルトのオペラ「魔笛」「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」の演奏等それぞれ注目の的となる多彩な演奏活動を続けています。



## Profile



### 林 園子 (ピアノ)

大阪音楽大学短期大学部ピアノ専攻卒業  
松本幸子・馬場喜子・藤田圭子諸氏に師事  
昭和55年大阪サンケイホールにて「ピアノデュオの楽しみ」でモーツァルトの交響曲第40番を演奏  
第4回大阪音楽大学卒業生による「フレッシュコンサート」に出演  
神戸に於いて「フリーゲルクラント」コンサートに出演



### 三宅 恵 (ピアノ)

武蔵野音楽大学音楽学部ピアノ専攻卒業  
玉井和子・難波菊枝・岩崎淑・樋口泰子諸氏に師事  
第16回岡山県新人演奏会に出演  
山陽学園短期大学部非常勤講師



### 小野 佐知子 (ピアノ)

6歳よりピアノを始める  
大山かずえ・名和輝子諸氏に師事  
1971年 第1回児童ピアノコンクール金賞受賞  
1973年 金光学園中学校入学、大森千穂・梅谷進両氏に師事  
1978年 東京芸術大学附属音楽高等学校に入学  
1981年 同大学入学、安川加寿子氏に師事  
1985年 同大学卒業  
1986年 中国短期大学助手となる



### 古里 静世 (ソプラノ)

上野学園大学音楽学部声楽科卒業  
上野学園大学音楽学部専攻科声楽専攻修了  
牧三都子・福田優子・近藤安介の諸氏に師事  
在学中より現代音楽研究室及び古楽研究室の演奏会に出演、又、大学の定期演奏会に出演。卒業演奏会、専攻科修了演奏会、並びにNHK新人演奏会に出演。「期待される新人演奏家の夕べ」「音楽シアター」出演。また「藍の会」ジョイント・コンサートに毎年出演する。  
倉敷に於いてリサイタル開催  
中国二期会準会員





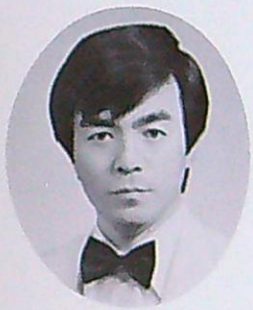
佐藤 則子 (ソプラノ)

国立音楽大学音楽学部声学科卒業  
吉田征夫・井上貞一・井上敦子・大原正義の各氏に師事  
第11回国立音楽大学フレッシュコンサート出演  
第3回岡山若い芽のコンサート出演  
第15回岡山県新人演奏会出演  
昭和58年2月東京都新宿区文化センターに於いて第1回ソロリサイタル「ドイツ名歌曲の夕べ」を持つ



永田 桂輔 (テノール)

大阪音楽大学卒業  
木村四郎・木下保各氏に師事  
昭和50年・56年に倉敷文化センターにてリサイタル  
作陽音楽大学講師を経て、現在倉敷市立短期大学助教授



仁科 喜代蔵 (バリトン)

東邦音楽大学卒業  
富田義助・水戸部克己各氏に師事  
第2回岡山県新人演奏会に出演  
昭和50年 二期会中四国支部オペラ「アマールと夜の訪問者」  
昭和57年 倉敷少年少女合唱団創作オペラ「パースーむパーティ」に出演  
その他楽興の会等のジョイントコンサートに出演  
水島コールピクルス指揮者・岡山音楽家協会会員・岡山芳泉高等学校教諭



福守 道子 (ピアノ)

大阪音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業  
神沢哲郎・永井譲氏に師事  
岡山県新人演奏会を皮切りに、過去27回の倉敷音楽協会及び過去10回の楽興の会の毎年の定期演奏会に独奏及び伴奏を行い現在に至る  
1980年 倉敷管弦絡団とモーツァルトの協奏曲K.537を協演  
1981年 フルートのジャン・ピエール・ランパル氏と協演  
1982年 大阪木管ゾリステンとモーツァルトのピアノと木管楽器のための五重奏曲K.452を協演  
1982年 「ピアノと木管楽器の夕べ」を開催  
1986年 木管アンサンブル「Tutti」と「第2回ピアノと木管楽器の夕べ」を開催  
岡山演奏家協会会員・倉敷音楽協会理事・岡山音楽家協会会員・楽興の会会員



菊池 東 (指揮)

5才よりヴァイオリンを始める。  
大学2年生の時、広島大学室内合奏団の指揮者となり、クラブ活動を続けるかたわら広島交響楽団の団員として活躍  
広島大学工学部卒業後、東京都民交響楽団のサブコンサートマスター等で活躍後、昭和48年帰岡。翌年仲間と共に倉敷室内管弦楽団（現倉敷管弦楽団）を創設。以来、同楽団の常任指揮者。又、倉敷音楽協会会員としてヴァイオリンソロ・アンサンブルの演奏活動を続けている。



# 倉敷音楽協会プロフィール

## ＋ 会 の 紹 介 ＋

文化都市倉敷の名にふさわしい音楽文化の向上を目的としたもので、お互いの技術の向上を計り年二回の定期演奏会をはじめサマーコンサート・児童生徒を対象とした巡回演奏・音楽コンクール・公開レッスン・研究会などを積極的に行っている音楽集団です。

## ＋ 会 員 資 格 ＋

倉敷近郊に在住又は勤務先があり、音楽専門教育を受けたものまたはそれに準ずるもの（在学を除く）で協会の主催する会において発表（演奏、作品）できる方、入会は春・秋の年二回のオーディションによる。次期オーディションは'86年10月の予定。

※入会の申し込み、又は協会についてのお問い合わせは 鈴鹿正理事長（☎22-9126）へ

## ＋ 倉 敷 音 楽 協 会 会 員 ＋（'86年9月現在）

中 鈴 仁 大 菊 福 渡 井 安 林 永 守 謙	村 鹿 科 森 池 守 辺 山 田 田 安 訪	平 正 蔵 穂 東 子 敏 京 恵 子 輔 子 美 子	喜 代 千 道 一 園 桂 則 江	剣 高 村 石 福 福 新 牧 妹 青 古 佐 早	持 須 上 原 島 明 谷 尾 木 里 伯 原	和 久 裕 悦 一 祐 妃 映 美 静 明 澄	子 美 子 子 子 美 子 子 子 智 世 彦 子	栗 丸 明 石 佐 高 武 小 田 三 犬 持 天	田 山 神 川 藤 瀬 田 寺 淵 宅 童 田 本	桂 圓 克 則 麻 朋 由 由 洋 敦 由	子 薰 子 美 子 子 子 香 子 恵 子 代 美	上 尾 坂 小 長 井 松 叅 前 佐 山 二	谷 崎 本 野 尾 上 尾 川 田 藤 下 瓶	直 佳 道 佐 久 み 久 美 子 美 穂 子	子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
---------------------------	-------------------------	-----------------------------	-------------------	---------------------------	-------------------------	-------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	-----------------------	---------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

倉敷音楽協会事務局

倉敷市老松町4-8-1

太田洋行倉敷店内

☎(0864)22-7331